

経営比較分析表（令和2年度決算）

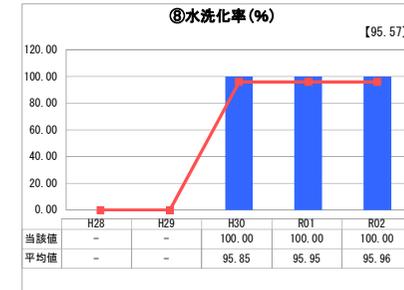
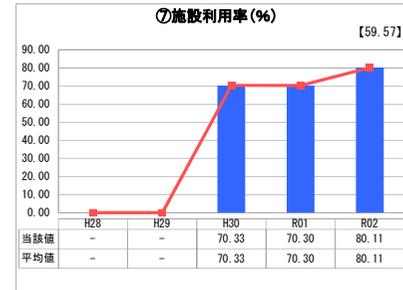
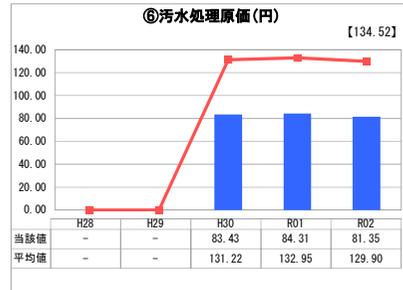
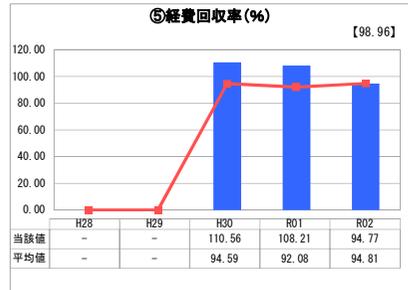
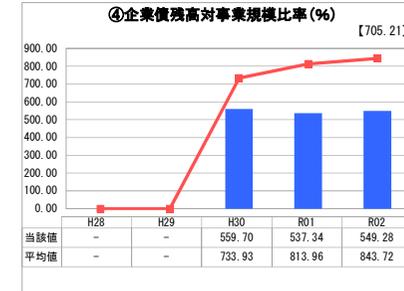
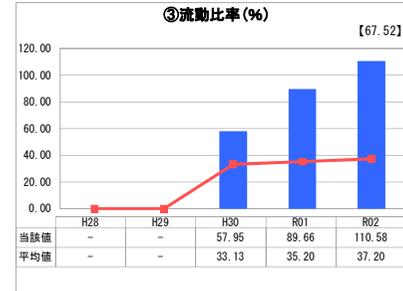
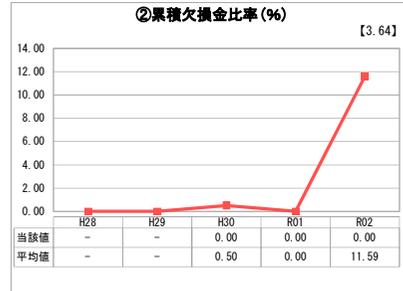
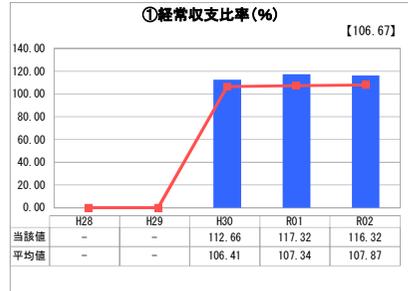
兵庫県 芦屋市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Bb1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)
-	70.44	100.00	63.33	1,485

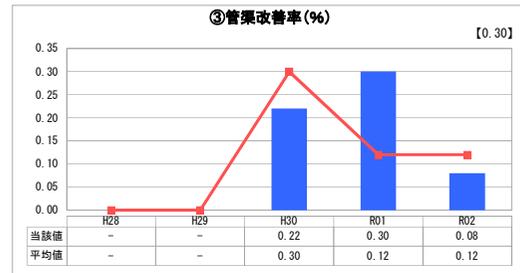
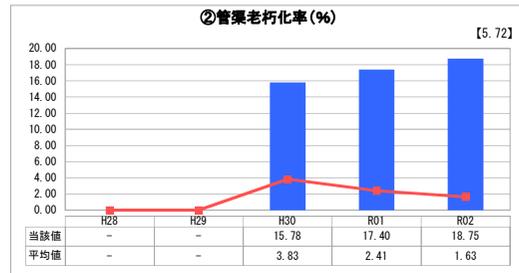
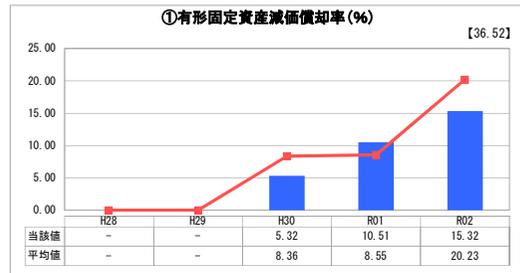
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
95,616	18.47	5,176.83
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
95,277	11.24	8,476.60

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
□ 令和2年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経営状況について、①経常収支比率は、平成30年度以降黒字であることを示す100%以上を維持しており、良好であると言える。③流動比率は改善し、令和2年度は良好であるとされる100%を超えた。④企業債残高対事業規模比率は、類似団体と比較して企業債残高は少なくなっており、良好であると言える。⑤経費回収率は、使用料で回収すべき費用を全て随えているとされる100%を下回ったが、これは新型コロナウイルス感染症独自支援策として下水道使用料の減免を行ったことにより下水道使用料収入が減少したことによるものである。⑥汚水処理原価は、類似団体平均値より安価であり、良好な状況である。⑦施設利用率は、概ね効率良く利用できていると言える。⑧水洗化率は、地方公営企業法の財務適用前から既に100%を達成しており、良好である。

なお、平成30年度から地方公営企業法の財務適用を行ったので、経営比較分析表上では平成29年度以前の比較は表示されていない。

2. 老朽化の状況について

昭和初期から管渠の布設を行っており、②管渠老朽化率は、類似団体平均値より非常に高くなっているため、老朽化が進んでいると言える。また、芦屋下水道処理場においても機械設備等が老朽化しているため、下水道施設全体の延命化を図りながら効率的な施設整備を行う必要がある。

全体総括

芦屋市下水道事業は、早くから下水道整備を行っていたため管渠や施設の老朽化が進んでいることが課題として挙げられる。
今後、人口減少等に伴い使用料収入が減少することが見込まれ、一方で老朽化や自然災害に備えるため、改築更新等に必要費用も増加するものと考えられる。
経営戦略及びストックマネジメント計画を活用して、効率的に改築修繕等を行い、将来にわたり安定した経営に努めていく。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。